

日本医労連東北地方協ニュース

発行2015年12月7日

医療に働くママの強い味方！「院内保育所」の拡充を！



11月14日(土)～15日(日)、日本医労連東北地方協「第20回院内保育所交流集会」が山形県天童温泉・天童ホテルで開催され、茨城から参加の2名を含め、全体で49名が参加しました。初めに日本医労連・三浦宜子書記長より「子どもを真ん中に手をつなごう」と題して基調報告をいただきました。報告では、子供たちにいい保育をするためには保育士と保護者の相互理解が必要なことはもちろん、労働組合や施設とも手をつなぎ、よりよい院内保育所を作り上げていくことが大事であることが話されました。

続いて、鶴岡協立病院小児科医師の石川充先生より「気になる子との関わり方について」と題して記念講演をいただきました。講演の中では、子どもの障害についてや障害のある子とその親との関わり方について具体的にお話しいただきました。発達障害は早期診断・早期療育・治療が必要であること。小学校に入ってからの子どもたちの未来は保育所の先生方の「気づき」にかかっていること。子どもの心に寄り添い、保護者の気持ちに配慮し、小児科の先生や保健婦さんとも連携して保護者との「気づき」のずれをなくしていくことが必要であることが話されました。

～東北地方協「院内保育所交流集会」を山形で開催～

次に、「豊かな心をはぐくむ手遊びの実践」と題して、東北文教大学附属幼稚園園長の渡邊栄子先生より手遊びの講習をいただきました。手遊びは顔の表情や手を使って表現する楽しさを味わえ、保育者と子供が一緒に一つのことを楽しむことで信頼関係を作る手立てともなることが話され、実践では、指遊びや手作りのスマホを使ったじゃんけん遊びなどを学びました。保育士の先生方は目をキラキラさせながら、保護者や組合役員はちょっと照れながら、童心に戻って楽しく講習を受けることができました。



夕食交流会では、参加した4県それぞれの保育士の先生方の芸達者な踊りや寸劇？、ゲームなどで楽しいひと時を過ごしました。

2日目の分散会では、2つの分散会ともそれぞれの職場の悩みや課題について活発な話し合いが行われました。最後に全体会でまとめを行い、次回再会を期して閉会しました。



☆次回開催は岩手です。多くの参加をお待ちしております。